

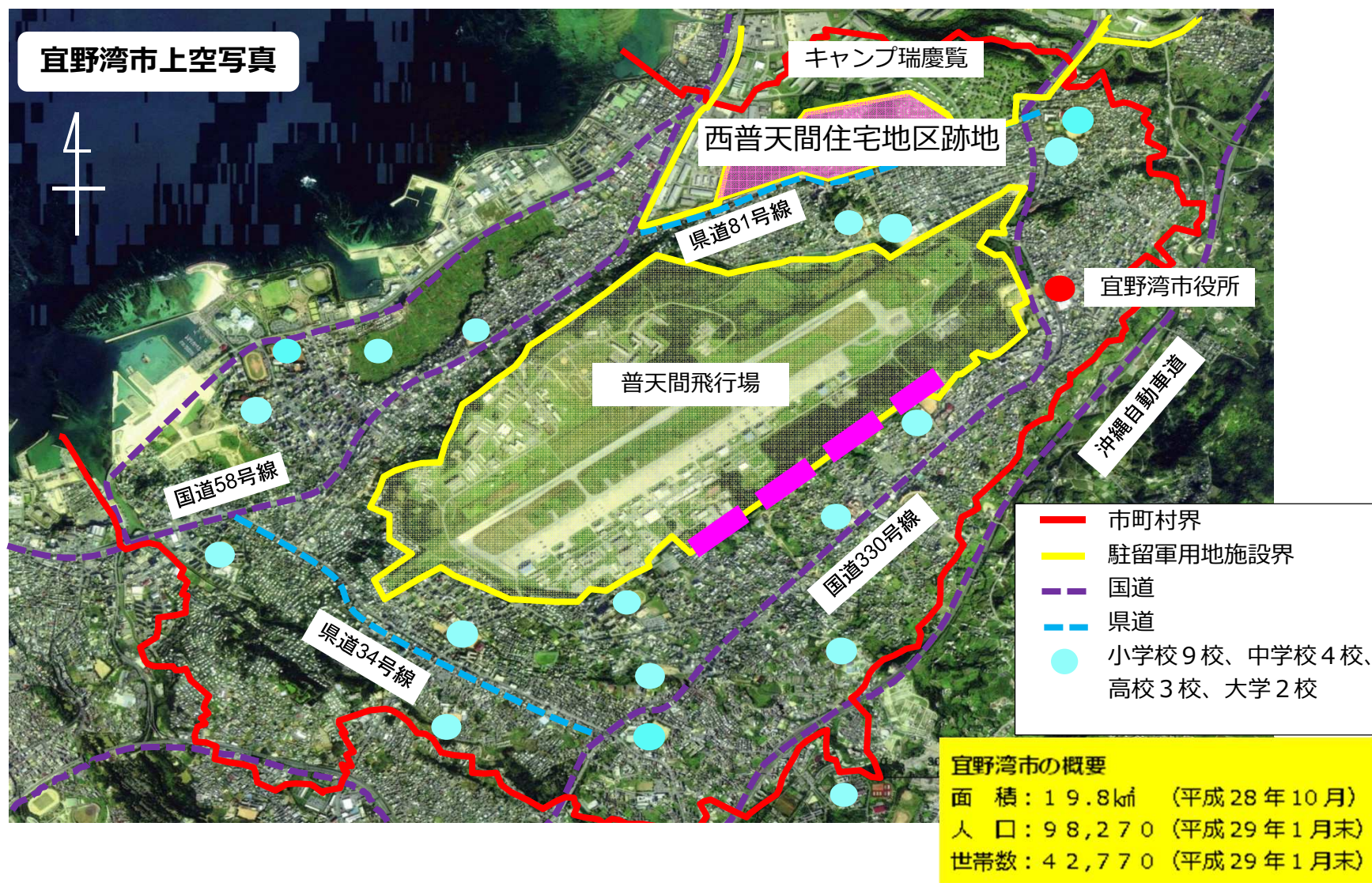
平成29年度
宜野湾市訪米要請行動
報告会

平成29年11月30日(木)

宜野湾市 基地政策部 基地渉外課



普天間飛行場の概要



普天間飛行場返還問題

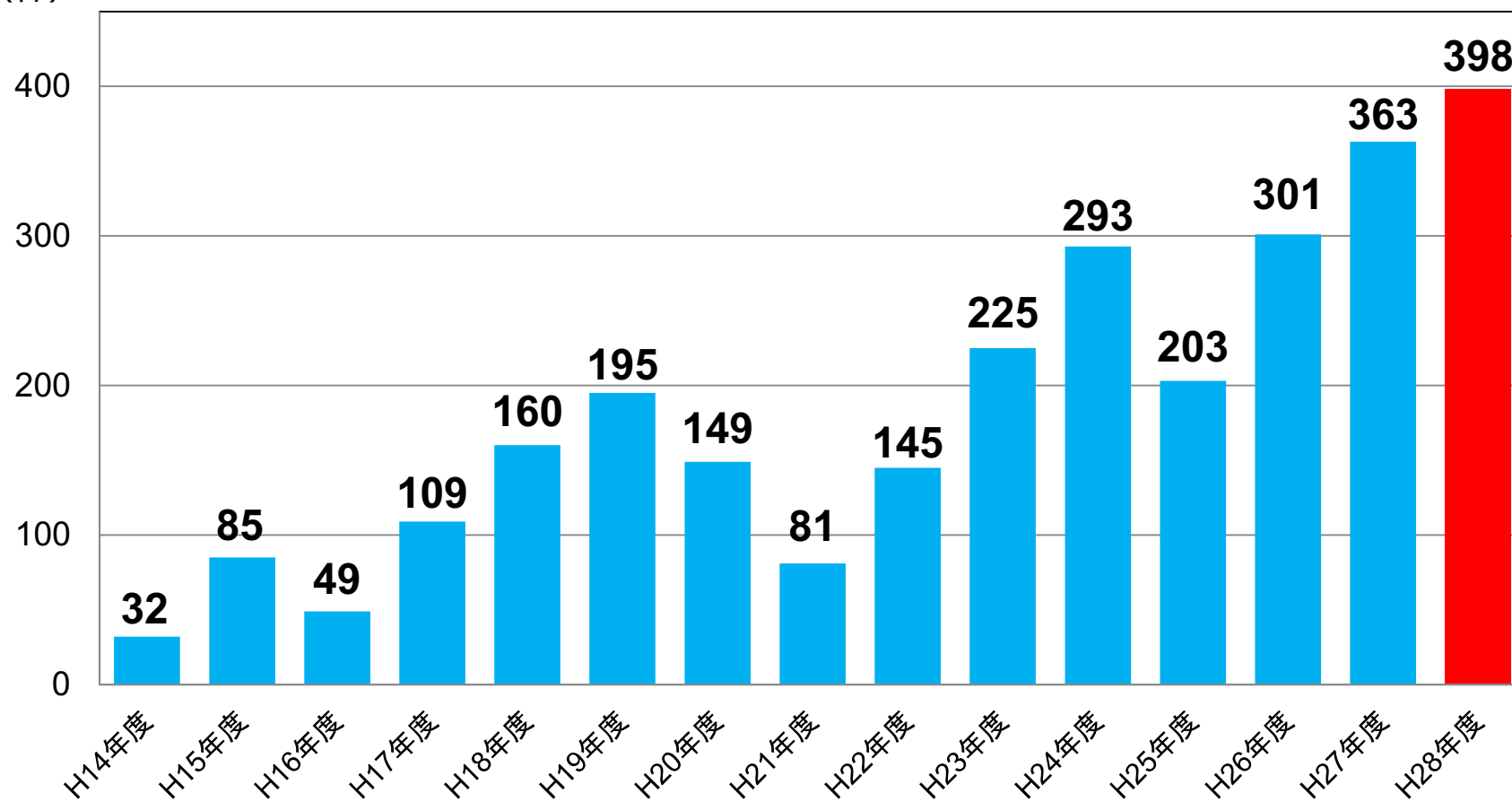
これまでの主な経緯

平成8年12月	「SACO最終報告」で「今後5年乃至7年以内に、十分な代替施設が完成し運用可能になった後、普天間飛行場を返還する」と合意
平成16年8月	沖縄国際大学へ米軍ヘリが墜落
平成18年5月	在日米軍再編協議最終報告（日米ロードマップ）において、普天間飛行場代替施設の建設は2014年までの完成を目標とすることを合意
平成24年10月	MV-22オスプレイの配備が開始（平成25年9月配備完了）
平成25年4月	日米両政府による「沖縄における在日米軍施設、区域に関する統合計画」において、普天間飛行場の「2022年度またはその後」の返還時期を公表
平成26年8月	普天間飛行場所属のKC-130空中給油機全15機の岩国飛行場への移駐完了
平成29年7月	普天間飛行場東側の土地（約4ha）の土地返還

騒音被害の深刻化

騒音に関する苦情件数

(件)



普天間飛行場所属機の事故(平成28年12月～)

平成28年12月13日	名護市沖でMV-22オスプレイが不時着水
12月13日	MV-22オスプレイの脚部故障
平成29年1月11日	CH-53ヘリの前脚降着装置の障害
1月20日	AH-1Zヘリがうるま市伊計島に不時着
6月1日	CH-53ヘリが久米島空港に予防着陸
6月6日	MV-22オスプレイが伊江島補助飛行場に予防着陸
6月10日	MV-22オスプレイが奄美空港に予防着陸
8月5日	MV-22オスプレイがオーストラリア沖で着艦失敗に伴う事故
8月29日	MV-22オスプレイが大分空港に予防着陸
9月29日	MV-22オスプレイが新石垣空港に予防着陸
10月11日	CH-53ヘリが東村で緊急着陸後に機体炎上

抗議・要請等一覧（平成28年度 12件）

要請日	内容	相手先
H28年4月14日	普天間飛行場の早期閉鎖・返還と、その間の危険性の除去及び基地負担軽減の実現について(要請)	内閣官房長官,外務大臣,防衛大臣,内閣府特命担当大臣
6月20日,21日	米軍機の夜間飛行に伴う騒音の禁止について(抗議・要請)	沖縄防衛局長,外務省沖縄担当大使,第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
7月12日,13日	宜野湾市民の切実な願いである普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還の実現について(要請)	沖縄県知事,内閣総理大臣,内閣官房長官,外務大臣,防衛大臣,内閣府特命担当大臣
8月25日,26日	普天間飛行場の補修事業について(要請)	内閣官房長官,防衛大臣
10月19日	普天間飛行場へのジェット戦闘機飛来について(抗議・要請)	沖縄防衛局長,外務省沖縄担当大使,第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
11月22日	普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還の実現に向けた県政の最重要課題としての取り組みについて（再要請）	沖縄県知事
12月7日,8日	宜野湾市民が強く望む普天間飛行場の一日も早い返還の実現について(要請)	内閣総理大臣,内閣官房長官,外務大臣,防衛大臣,内閣府特命担当大臣
12月14日	MV-22オスプレイの不時着水について(抗議・要請)	沖縄防衛局長,外務省沖縄担当大使,第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官,防衛大臣,外務大臣
12月27日	MV-22オスプレイの不時着水事故及び普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還の実現について(抗議・要請)	内閣官房長官,外務大臣,防衛大臣
H29年1月17日	米軍機の夜間訓練に伴う騒音及び異音の発生について(抗議・要請)	沖縄防衛局長,外務省沖縄担当大使,第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
1月23日,26日	普天間基地所属機による不時着について(抗議・要請)	
3月6日,7日	普天間飛行場5年以内の運用停止に向けて(要請)	外務大臣,防衛大臣,内閣府特命担当大臣

抗議・要請等一覧（平成29年度 8件）（11月末現在）

要請日	内容	相手先
H29年6月2日	普天間飛行場所属CH-53E型ヘリコプターの予防着陸について（抗議・要請）	沖縄防衛局長,外務省沖縄担当大使,第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
6月12日	米軍機の予防着陸及び夜間騒音について（抗議・要請）	
6月29日	普天間飛行場におけるサイレン音の発生について（抗議・要請）	沖縄防衛局長,第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官,普天間航空基地司令官
7月21日,25日	米軍機の夜間飛行に伴う騒音について（抗議・要請）	沖縄防衛局長,外務省沖縄担当大使、第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
8月7日,9日	MV-22オスプレイのオーストラリアにおける訓練中の事故について（抗議・要請）	
8月31日,9月5日	MV-22オスプレイの大分空港への予防着陸について（抗議・要請）	
10月4日	MV-22オスプレイの石垣空港への予防着陸について（抗議・要請）	
10月12日,13日,16日	CH-53ヘリの北部訓練場外での事故について（抗議・要請）	沖縄防衛局長,外務省沖縄担当大使,第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官,自由民主党政務調査会長

普天間飛行場負担軽減推進会議

普天間飛行場の5年以内運用停止をはじめとする基地負担軽減に向け、政府、県、市の三者で構成される普天間飛行場負担軽減推進会議が開かれています。



取り組みの成果

平成26年8月

普天間飛行場所属のKC-130空中給油機
全15機の岩国飛行場へ移駐

市内9団体による宜野湾市共同声明



共同記者会見(平成27年11月30日)



官房長官要請(平成27年12月1日)

構成団体

- 宜野湾市
- 教育委員会
- 老人クラブ連合会
- 青年連合会
- PTA連合会
- 市議会
- 自治会長会
- 婦人連合会
- 商工会

抗議・要請先

〈県内〉

沖縄防衛局長、沖縄県知事、外務省沖縄担当大使、第三海兵遠征軍司令官、在沖米国総領事

〈県外〉

内閣総理大臣、内閣官房長官、外務大臣、防衛大臣、沖縄及び北方対策担当、駐日米国大使、在日米軍司令官

全面返還合意から21年



「市民の不安や苦悩はすでに限界を超えております。返還合意の原点が置き去りにされ、市民の安全や安心がおざなりにされ続けていると言わざるを得ず、9万8千名余の市民の生命・財産を守る宜野湾市長として決して看過できるものではありません。」とのコメントを発表いたしました。

記者会見(平成29年4月11日)

平成28年度宜野湾市訪米要請行動



日付		内容	
4月24日	日	ワシントンDC	・東京発/ワシントン発 ・在アメリカ合衆国大使館でのブリーフィング
4月25日	月		【要請】 連邦議員 【視察】 ウォルターリード米軍医療センター、NIH
4月26日	火		【要請】 国防総省・国務省、連邦議員、CFR
4月27日	水		【要請】 連邦議員、CNAS、CSIS、 笹川平和財団 ・記者会見
4月28日	木	ハワイ	・ワシントン発/ハワイ ホノルル着 ・ハワイ沖縄県人会との交流
4月29日	金		・在ホノルル総領事館でのブリーフィング 【要請】 米軍関係 ・ハワイ宜野湾市人会との交流
4月30日	土		・ハワイ ホノルル発/沖縄着(翌日)

訪米行動の趣旨

- 米国新政権に対し、改めて返還合意から21年が経つ今なお宜野湾市民が抱える未だ変わらない過重な基地負担の現状と、これ以上普天間飛行場を固定化・継続利用することは絶対にあってはならないという地元の生の声を直接伝え、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と、返還されるまでの間の危険性除去及び基地負担軽減の実現を要請する。
- 返還後の跡地利用を見据えた人材育成の観点から取り組んでいる、本市中学生の海外留学事業について紹介するとともに、留学時に米国政府関係者との面談や施設見学等が実現できるよう米側の協力を要請する。

主な日程

日付		内容	
10月22日	日	ワシントン D.C	・東京発／ワシントン着 ・在アメリカ合衆国大使館からのブリーフィング
10月23日	月		【要請】国防総省・国務省 ・CSIS
10月24日	火		【要請】連邦議員
10月25日	水		【要請】連邦議員 ・スティムソンセンター、SASAKAWA Peace Foundation US ・記者会見
10月26日	木		・ワシントン発／ハワイ ホノルル着
10月27日	金	ハワイ	・在ホノルル総領事館でのブリーフィング 【要請】米太平洋軍、米太平洋海兵隊 ・APCSS ・ハワイ宜野湾市人会との交流
10月28日	土		・ハワイ ホノルル発／沖縄着(翌日)

要請事項

- 1、普天間飛行場を絶対に固定化・継続使用せず、一日も早い閉鎖・返還を実現すること
- 2、日米両政府の真摯な協議の下、普天間飛行場の返還期日を早期に確定させること
- 3、返還されるまでの間の普天間飛行場の危険性除去及び基地負担軽減について、日米両政府においてこれまで以上の取り組みを行うこと
- 4、普天間飛行場に配備されているMV-22オスプレイを他の拠点へ移駐すること
- 5、日米間で合意されている「普天間飛行場における航空機騒音規制措置」を厳格に遵守するとともに、市民が特に苦しむ夜間飛行及び住宅地上空における旋回飛行訓練を行わないこと
- 6、普天間飛行場所属の米軍機による事故やトラブルが相次いでいる現状を踏まえ、同様な事案が二度と起こらないよう、再発防止策を確実に講じ、安全管理の徹底を図ること

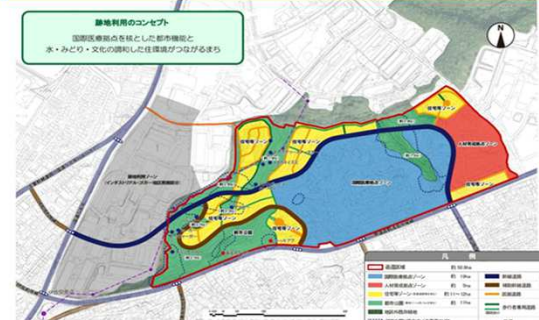
説明資料②

アクセス道路の設置

国道 58 号と西普天間住宅地区跡地をつなぐアクセス道路の設置



キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用計画



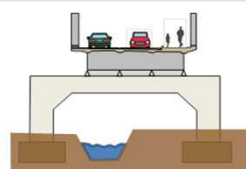
事業内容

平成 27 年 3 月に返還されたキャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）のまちづくりに向け、現在計画を進めております。地区には県道 81 号線と国道 58 号を結ぶ幹線道路が通る予定となっております。インダストリアル・コリドーが返還されるまでの間は、国道 58 号と西普天間住宅地区をつなぐアクセス道路（高架式）を共同使用することで平成 27 年 12 月に日米間で合意されました。このアクセス道路は、平成 28 年度から調査に着手し、平成 35 年度から供用開始を目標に進めて参ります。

国道58号へのアクセス道路



高架式道路の形状等のイメージ



今後のスケジュール（予定）

- 平成 28～31 年度
調査・測量・設計・協議
- 平成 32～34 年度
工事（完成後供用開始）

アクセス道路の幅員

車道部：3.0+3.0=6.0m（片側一車線）
歩道部：2.5m（片側のみ）
路肩部：1.0+0.5=1.5m
地 覆：0.6+0.4=1.0m
道路幅員 11.0m

説明資料③

クォーターリーミーティング

▶クォーターリーミーティング

宜野湾市では、市内に所在している普天間飛行場、キャンプ瑞慶覧、海軍病院の各司令官と、現地レベルで解決可能な議題を協議する場として、定期的に「クォーターリーミーティング」を開催し、お互いが抱える諸課題の解決に向け建設的に取り組んでおります。



協定により、災害時において赤色で示された避難ルートを一般住民が利用できるようになった。



キャンプ瑞慶覧避難訓練



2017年4月27日 場所：普天間飛行場

その成果として、津波災害時に一般市民が避難のため基地内に通行できるよう協定が結ばれました。

その後、実際に一般住民が基地内に立ち入りし、避難経路の確認と訓練を実施しました。



2012年11月5日
太平洋基地司令官、宜野湾市、北谷町で協定を締結

その他、普天間飛行場との間で緊急車両の人的的立入りについての協定書も締結しております。



2015年12月22日
普天間飛行場と緊急車両立入り協定

▶相互交流



はごろも祭り カチャーシー大会

宜野湾市及び各基地で行われる様々なイベント開催時には、互いに参加、交流をはかり、双方の文化理解に努めております。



宜野湾市新春の集い



青年エイサー祭り



フテンマフライトラインフェア



宜野湾市新採用職員による普天間飛行場視察



市内一周駅伝



交通

の交通事故防止

説明資料④

ガバメント・クラウド・ファウンディング(GCF)

基地跡地の未来を担う人材育成のため市内中学生の海外留学に向けたプロジェクト

趣旨、目的

本市は、まちのど真ん中に
普天間基地を抱え市内の小中
学生は日々騒音など、基地負
担に悩まされています。

その一方で、普天間基地の
返還を見据え、大きな可能性を秘めた基地跡地というフィー
ルドにおいて活躍できる、世界に目を向けた人材を育成してい
くことが求められています。

基地跡地の未来を担う国際的な視野を持った人材を育成す
る第一歩として、市内の中学生に海外留学を経験させる事業を
行つため、「ガバメントクラウドファンディング」により寄附
を募ることとしました。

※「ガバメントクラウドファンディング」とは、自治体が抱える問
題解決のため、寄附金の使い道を具体的にプロジェクト化し、そ
のプロジェクトに共感した方から寄附を募る仕組みです。



中学生に経済的負担な
く平等に海外留学への
チャンスを与えるため、
自己負担ゼロの実現を
目指しています。

市内中学生

海外留学

留学経験
フィードバック



基地跡地の未来



2017 年留学報告会



Through this studying abroad...

I think that I have grown up from this program. I was not
good at listening to English. But now, I listened to each
word carefully. So I can hear it now.

I was also able to learn things I could only learn there.
At first, I couldn't use English. So, I couldn't communicate
with my host family. Even if I didn't use English, my
host mother still understood. So I thought I should try to
speak English more. On the last week, I had a conversation
with my host mother and I was able to understand it. I was
happy because everyone was very kind to me.

The other program members were amazing. And the American people
were very nice. This is a summer I will never forget, because of
everyone I was able to grow and I am grateful of that.
This was amazing experience and I will never forget it. I will keep
remembering this.

My host family is a happy family, always
smiling. When I met them for the first time,
I felt nervous because they were nice to me.
My host mother Tiffany, my host father, James,
my host brother, Aidan, and my host sister, Emily,
were very kind to me. Aidan is eight years old.
He taught me a lot of words and idioms.
On the second weekend, we went to the
river where it takes two hours to go by car.
I learned how to jump into the river and
I felt so great.

On the last weekend I was there, we
went to a Christian concert. I was very
excited. I was a little bit surprised because
my host family was so excited that they were
staying very loudly. It is one of the best
memories in my life.

留学で助けてくれた皆に感謝

Mr. Rainier

- 基地跡地の未来を担う子どもたちの人材育成に繋げる
- 日米の新たな関係性の構築へ
- 跡地利用を通して、宜野湾市の更なる発展、さらには沖縄及び東アジア全体の発展に繋がる可能性を秘めている。

米国政府関係者との面談(ワシントンD.C.)



国務省

(10月23日)

- マーク・ランバート次官補代理代行
- ジュリー・チャン日本部長



国防総省

(10月23日)

- アンドリュー・ウィンターニッツ
アジア太平洋安全保障部筆頭部長代行
- ポール・ヴォスティ日本部長代行

要請に対する反応

国務省



- 沖縄に駐留している米軍が負担になっていることは承知している。
- 普天間の問題は、本国でも優先順位の高い問題として伝わっている。
- 普天間飛行場は返還する施設の一部と理解しており、その実現のために今後も取り組みを持続していく。
- ガバメントクラウドファウンディングの取り組みは、とても興味深い。
- 若い世代に焦点をあてるのはとても良い。

要請に対する反応

国防総省



- 昨年以降、北部訓練場の返還や、普天間飛行場東側部分の返還などが実施されたが、それらは普天間飛行場を早期に解決するという米国の決心の表れであり、返還の必要性の認識は共通のものである。
- 要請内容のほとんどが、キャンプシュワブへの移設により解決する。
- 移設により負担軽減が実現でき、大統領も国防長官もそれを目標としている。
- 10月に発生したCH-53の事故については、調査が終わり次第、結果をお知らせする。

連邦議員との面談(ワシントンD.C.)



ダン・サリバン上院議員
(10月24日)

共和党・アラスカ代表

所属委員会: 軍事委員会、商業・科学・運輸委員会、環境・公共事業委員会、退役軍人事業委員会



チャーリー・デント下院議員
(10月24日)

共和党・ペンシルバニア代表

所属委員会: 歳出委員会(軍事建設等小委員長)

連邦議員との面談(ワシントンD.C.)



ジョン マケイン上院議員
(補佐官対応)
(10月24日)

共和党・アリゾナ州代表

所属委員会: 軍事委員会、外交委員会、国土安全保障・政府問題委員会、インディアン問題委員会、諜報特別委員会



メイジー ヒロノ上院議員
(10月25日)

民主党・ハワイ代表

所属委員会: 軍事委員会、エネルギー・天然資源委員会、司法委員会、中小企業委員会、退役軍人事業委員会

要請に対する反応

連邦議会議員

【共通の返答】

普天間飛行場の返還は、必要である。

【個別の返答】

- 普天間飛行場を訪れた際、住宅がこれほど密集していること、また普天間基地にこれほど隣接していることを目の当たりにして大変ショックを受けた。その地域に住む方が返還を望んでいることは大変理解しているが、返還するためには、キャンプシュワブへの代替地が必要である。
- 地元の方々の認識、混乱などは非常に理解している。私どもも移設が早く実現すれば良いと思っているが、ただ代替施設がなければ、普天間飛行場の返還は実現できない。
- 普天間飛行場が一日も早く完了することを願っている。移設先が完成すれば、普天間飛行場の返還は実現する。
- 日米間の交流は大切であり、中学生の留学事業については国務省に働きかけるなど協力していきたい。



シンクタンクとの面談(ワシントンD.C.)



10月23日

CSIS戦略国際問題研究所

ニコラス・セチェーニ日本担当副部長

外交・安全保障分野を中心に
重要な政策提言を米政府に対し
行い、政策形成に大きな影響力
をもつ。



10月25日

SASAKAWA Peace Foundation

ジェームス・ズムワルト会長

CSISと共に「日米安全保障研究
会」を発足。安全保障に関する研
究等を行っている。

シンクタンクとの面談(ワシントンD.C.)



10月25日

スティムソンセンター

辰巳由紀 研究員

同席: ジョン・ウィスラー氏

(元第三海兵遠征軍司令官・

沖縄地域調整官)

外交・安全保障分野を中心に重要な政策提言を米政府に対し行い、
政策形成に大きな影響力をもつ。

要請に対する反応 シンクタンク



- 普天間飛行場の辺野古への移設が一番実現的なプランであり、プランBは普天間の固定化である。
- 辺野古への移設が唯一の解決策というのは、トランプ政権になっても変わっていない。
- 嘉手納以南の返還の実現のカギは、普天間飛行場の辺野古移設である。移設が遅れれば遅れるほど、実現が難しくなる。
- 私の知っている限りでは、アメリカ政府も海兵隊も早く移転したいと思っている。
- 日米両政府で辺野古が代替移設という考えは変わらないだろう。またそれが普天間飛行場返還の一番の解決策だ。両政府にとって辺野古移設以外の良い選択肢というのはない考える。
- ガバメントクラウドファウンディングについては、大変良いプロジェクトだと思う。

記者会見



ワシントンD.C. 滞在4日目には、ナショナルプレスクラブにて記者会見を行い、これまでの訪米要請行動の成果について説明をいたしました。

記者会見(10月25日)

キャンプスミス (10月27日)



米太平洋軍
スザンナ・ヴァレスラム准将
(政策・戦略部補佐官)



米太平洋海兵隊
ブリアン・カバノー准将
(副司令官)



米太平洋海兵隊
スコット・レオナルド大佐
(参謀長)

キャンパスミス（10月27日）



- 先日の2+2においても、普天間飛行場の早期返還の必要性和、そのためには辺野古への移設が唯一の方策であることが確認されたが、我々もそれを支持している。
- 要請内容の必要性については理解します。だからこそ、一日も早い移設が必要である。



- 市長からの要請事項については、ハリス米太平洋軍司令官にもお伝えいたします。
- (事故やトラブルに対する懸念や要請を受けて)地元の安全が第一ではあるが、訓練は引き続き行っていかななくてはならない。今後、安全により努力していく。



- (夜間等の騒音の改善要請を受けて)ニ科尔ソン中將をはじめ海兵隊も、要請を十分理解しており、地元からの要望を受け学校行事等に配慮をしている。今後も地元と良い関係を築けるよう努力していきたい。

APCSS (10月27日)

(Daniel K. Inouye Asia-Pacific Center for Security Studies Homepage)
(アジア太平洋安全保障研究センター)



アメリカ国防総省の研究・研修機関。

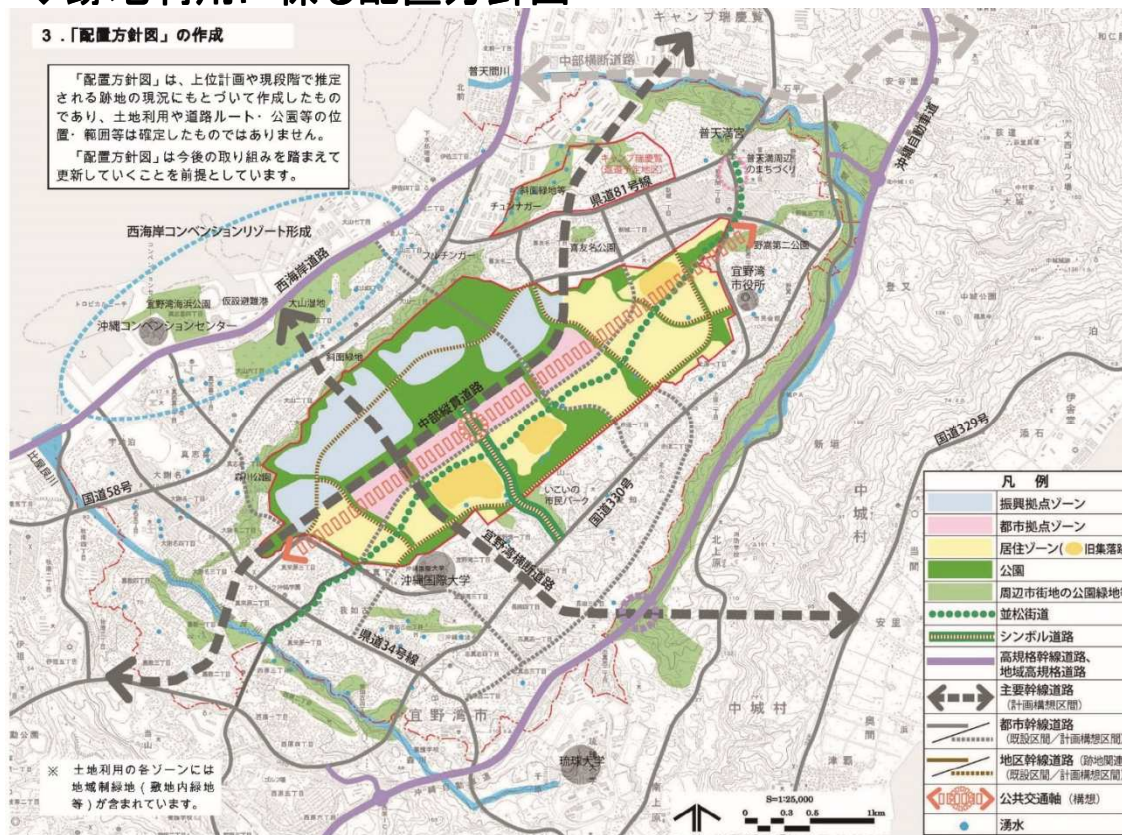
アジア太平洋各国との緊密な関係を構築するとともに、アメリカ太平洋軍を支援する目的も持つ。

短期・長期の研修プログラムが設置され、各国の軍人や文民が参加する。

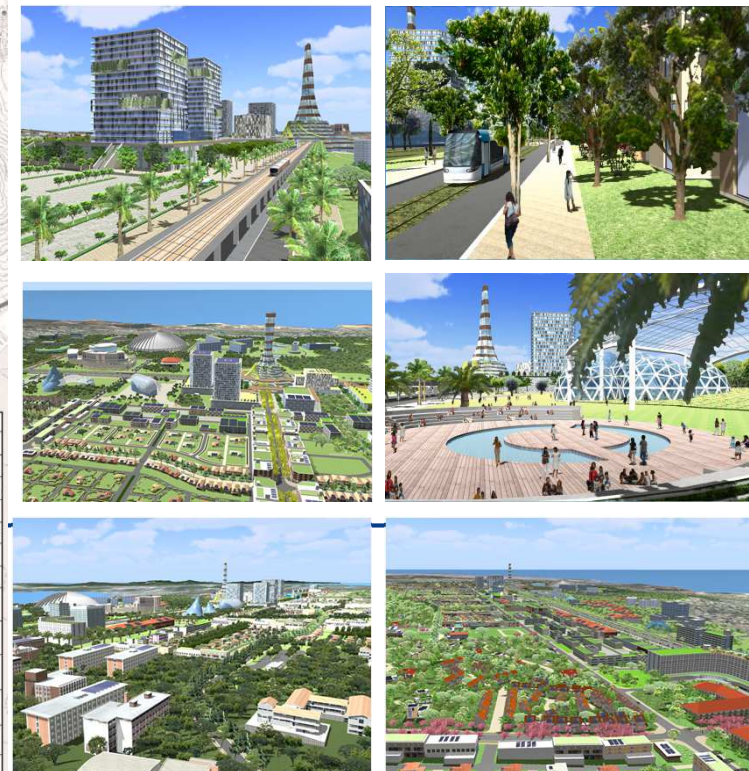
訪米の成果

- ◆ 普天間飛行場をめぐる問題に直接関わる方々に地元の声を伝え、早期返還の必要性を共有するとともに、返還に向けて日米両政府が協力して取り組んでいくことを再確認
- ◆ 相次ぐ事故や騒音問題について、国防総省・国務省・米軍に対し、改善するよう直接申し入れ
- ◆ 跡地利用を見据えた子ども達の人材育成の取り組みを紹介し、協力を要請

◆跡地利用に係る配置方針図



【未来の跡地利用のイメージ】



◆返還予定駐留軍用地における経済効果

	活動による直接経済効果		
	返還前	返還後	倍率
普天間飛行場	120	3,866	32倍
キャンプキンザー	202	2,564	13倍
那覇港湾施設	30	1,076	36倍

※活動による直接経済効果

返還前: 地代収入、軍雇用者所得、米軍等への財・サービスの提供額、基地周辺整備費等、基地交付金

返還後: 卸・小売業、飲食業、サービス業、その他産業の売上高、不動産(土地、住宅、事務所・店舗)

最後に、外務省沖縄事務所をはじめとする
本訪米にかかりご協力いただいた
皆さまに心より感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました

平成29年度
宜野湾市訪米要請行動報告会

